

**第49回 契約・調達管理会議
議事要旨**

1 開催日時

令和8年3月27日（金曜日）

2 開催方法

書面開催

3 出席者

(1) 委員（敬称略、五十音順、○委員長）

○鶴川 正樹	鶴川公認会計士事務所／公認会計士
板倉 広泰	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団デフリンピック準備運営 本部総務部シニアマネージャー
金谷 晃臣	東京都スポーツ推進本部国際スポーツ事業部事業調整第二課長
清水 俊二郎	東京都スポーツ推進本部事業調整担当部長
滝口 広子	北浜法律事務所・外国法共同事業／弁護士
灘野 邦敏	一般財団法人全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会
藤川 太郎	一般財団法人全日本ろうあ連盟

(2) 事務局

東京都スポーツ推進本部

4 要旨

(1) 開会

(2) 議事（発言者の敬称略）

ア 契約案件一覧（報告事項）

<説明・確認>

・案件の概要について事業担当者から主に以下を説明。

(ア) 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団デフリンピック準備運営本部の契約案件
東京 2025 デフリンピックに係る契約は、令和8年3月25日時点で計244件で
あり、契約方式は、希望制指名競争入札、総合評価方式、随意契約、見積競争と

複数の方式で実施し、一覧に記載した契約金額は、契約変更後の最終金額を記載している。

- (イ) 一般財団法人全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会の契約案件
令和5～7年度の3年間で計12件であり、主な契約は4分野で、①運営委員会ホームページ更新業務（鈴木氏へ3年間継続委託）、②大会エンブレム候補作成・商標出願等業務（複数見積の上、西川商標知財事務所へ委託）、③外部通報窓口設置（男女各1名の弁護士と契約）、④監査契約（佐藤会計士と継続契約）であり、スポーツ庁のガバナンス指針に沿った体制整備を目的とした契約が中心である。

<質疑・意見など>

藤川：デフリンピック準備運営本部の契約案件一覧に記載されている金額は、契約変更後の最終金額として整理しているとのことだが、金額は増えたのか、減ったのか。

担当者：金額が増えた契約案件もあれば減った案件もある。

イ 譲渡物品一覧（報告事項）

<説明・確認>

- ・案件の概要について事業担当者から主に以下を説明。
大会準備・運営にあたり調達した物品の多くは、大会中に使用・消耗されたが、一部は大会終了後も使用可能な状態であり、使用可能な物品は大会終了後に事業団へ戻し、有効活用を前提に対応を検討。備品の多くは競技用備品であったが、東京都スポーツ推進本部を通じて庁内調整を行い、都立の学校やスポーツ施設等を中心に譲渡を行った。また、都負担金で調達した飲料水は、有償譲渡を行った。なお、使用できなくなった物品については、適切に廃棄処理を実施した。

<質疑・意見など>

鵜川：備品の譲渡先は東京都の教育庁が多いのか。

担当者：基本的には競技用備品であり、各学校の部活での利用も想定し、譲渡先は教育庁が多くなった。

滝口：再使用が可能なものが今回の譲渡対象になっているという認識で合っているか。

担当者：物品調達は基本的にはリースではあるが、調達したもののなかで、大会を通じてまだ使用できるものについて譲渡した。

ウ 委員長によるまとめ

- ・今回の報告事項案件の内容について確認を行い了解した。

エ 契約・調達管理会議全体に係る委員からのコメント

鵜 川：本会議では、契約の公正性、公平性、透明性の確保を目的として、予算執行と契約調達等の確認を実施してきたが、その過程を通して、デフリンピックのガバナンス強化と大会運営の内製化によるノウハウ獲得と効率化に多少でも貢献することができたのであれば幸い。これも委員の皆様、連盟、都、事業団等の関係者のご尽力によるものと感謝している。個人的には、開会式に参加し、一部競技の観戦を通して、デフリンピックのめざすものが、国際的な、また、日常的な連帯感の強さとして実感できたことは貴重な経験になった。

滝 口：この会議は、国際的なスポーツ大会におけるガバナンス確保の仕組みの一つとして、設置されたものだが、関係者皆様のご協力により、その役割は果たせたと考えている。この取組みの振り返りを、今後の同種の大会運営の際に活用していただけることを期待している。

藤 川：委員の皆様、そして事務局の皆様、3年間にわたり大変お世話になった。今回の委員会では、きこえない委員と初めて会議を共にされた方も多かったことと思う。情報保障の面など、当初は戸惑われることも多々あったかと思うが、皆様が深い理解をもって柔軟にご対応して下さったおかげで、最後まで円滑に議論を尽くすことができた。改めて心より感謝申し上げます。おかげさまで、大会運営においても予算内での執行を達成し、大きなトラブルもなく無事に終えることができた。これもひとえに、皆様が「縁の下の力持ち」として、見えないところで多大なるご尽力を下さった賜物である。この3年間、皆様と共に歩めたことを光栄に思う。これまでの温かいご支援とご協力に、深く御礼申し上げます。

灘 野：本委員会における審議にあたり、私はきこえない当事者の立場から、デフリンピックに係る契約調達事務が、透明・公平であるかという観点で臨んできた。契約調達の手続そのものは、形式的には法令および規程に基づき適正に進められていることが確認されている。しかし、単に手続が整っていることのみならず、各事業において、きこえない人々の情報へのアクセスの平等性が確保されているかという点も重要だと思う。デフリンピックは、きこえない人々のための国際的な大会であるからこそ、その運営においても当事者の視点が十分に反映される必要があると思ひ審査に臨み、デフリンピックを都及び事業団の皆様とともに成功に導いたことは良かったと思っている。将来、再びデフスポーツの国際大会が行われるとしたら、本委員会 で得た知見を、契約調達の分野における、情報保障の徹底、可視化された意思決定、多様性を前提とした仕組みづくりに生かしてほしいと思う。

板 倉：本会議においてご審議いただいたことは、契約の透明性の向上や職員のコンプライアンス意識の向上など、組織としてのガバナンスの確保に繋がるとと

もに、何より今大会の成功の大きな支えになったものと考えている。今後も、委員の皆様からいただいた貴重な御知見を糧に、当事業団としてガバナンス確保の強化に努めていく。

清水：契約・調達案件を付議する東京都スポーツ文化事業団デフリンピック準備運営本部及び全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会の職員の方々には、通常の契約・調達手続き以上の事務負担がかかったと思う。その努力に感謝の意を表す。会議での活発な意見交換により、様々な角度から内容をチェックすることができ、契約・調達の適正性が確認されるとともに、都民のデフリンピック大会に対する信頼度向上につながったと思う。本会議での実績を、今後の国際スポーツ大会においても、適切に活かされていくことを期待している。

金谷：本会議が49回にわたり開催され、大会に関する契約の妥当性や適性性について丁寧な確認が行われてきたことは、東京2025デフリンピックの成功において大きな役割を果たしたものと考えている。本会議を通じて得られた知見等については、今後の国際スポーツ大会においても、その特性や規模等に応じたガバナンス確保に向け、適切に活用していきたい。

オ 閉会